

## 40代 女性 入院期間 2018年4月～7月 TARC43000の最重症アトピー性皮膚炎が見事に改善

### 入院までの経過

高校2年から顔と四肢屈曲部にアトピー性皮膚炎が生じるようになり、適宜ステロイド・プロトピック外用使用していたが、就職、飲酒、季節の変わり目といったタイミングで悪化。

悪化時はセレスタミン（ステロイド内服）を1～2週間加えてコントロールする療法を20年間継続していた。

36歳から皮膚炎は慢性化し、体部にはベリーストロングのステロイド、顔にはマイルド（中等度）タイプのステロイド+プロトピックを毎日塗布するようになった。2017年結婚後に悪化。2018年妊娠し、更に急速に悪化した。流産後ステロイド外用は効果がなくなり、よりいっそう悪化。姉が重症アトピー性皮膚炎で、当院での入院治療で改善した事から当院への入院を選択した。

		入院時	1ヶ月経過	2ヶ月経過	退院時	退院後1ヶ月	退院後2ヶ月
	基準値	2018/4/3	2018/5/1	2018/6/4	2018/7/20	2018/8/21	2018/9/19
TARC	450以下	43528	42225	9610	4549	2011	1359
LDH	120～245	443	476	481	291	240	201
IgE	170以下	7166	12310	7469	8118	8470	7317
好酸球	7%以下	25	30	31	9.2	16	12
POEM（自覚症）	最重症者 20～28	28	28	17	13	13	5

### 入院後の経過

入院と同時に脱ステするためリバウンドが生じるが、BSC（バイオ入浴）によりリバウンドは軽く抑えられる。

しかし、さすがに長年ステロイドによる免疫抑制療法を行っていたため、皮膚炎は入院後も一時悪化し、アトピー性皮膚炎の改善は入院後1ヶ月を過ぎてからになった。入院から2ヶ月経過時点でTARCは1/4に低下し、退院時には1/10に低下した。体重も醗酵玄米食で13kg減量できスリムな体型になれた。退院後の外来診察時にも順調に改善しており、皮膚は見違えるほどきれいになった。

このケースではステロイド療法が限界にきたところに、結婚での生活環境の変化に伴うストレスや、妊娠による免疫変化が重なり悪化していた。一般にアトピー性皮膚炎はTARC3000以上で重症、6000以上で最重症と言われているが、このケースでは40000を超えるTARCがもの見事に低下している。

現代人のほとんどは幼少期の免疫形成に失敗していてアレルギー免疫が過剰になっていますが、この症例は自然免疫賦活療法の効果がどれほど優れているかがよく判ります。BSCでは免疫が自然状態に戻るため妊娠がうまくいくケースが非常に多く、今後は楽しみです。



入院時



退院時



